

神戸市総合基本計画審議会第4回総会 議事要旨

- 1 開催日時：平成22年11月1日（月）16：30～18：29（於：神戸国際会館9階大会場）
- 2 議事要旨
 - ・会議に先立ち、矢田市長、新野会長の挨拶に引き続き、事務局より審議経過の説明を行った。
 - ・会長により議事に入る旨の発言があり、事務局に対して「次期神戸市基本計画（素案）」に係る資料の説明を求めた。

(1)「次期神戸市基本計画(素案)」について

- ・事務局より「次期神戸市基本計画（素案）」である「神戸づくりの指針(素案)」(資料3)及び「神戸2015ビジョン（重点施策計画）(素案)」(資料4)、「各区計画（素案）」(資料5)、各参考資料について順次、説明がなされ、それぞれについて審議が行われた。委員の主な発言は以下のとおりであった。

【神戸づくりの指針(素案)】

(観光について)

- ・P37「観光交流と企業誘致をすすめる」の3について、観光の定義にもよるが広義に「人口交流にともなう金額消費」と考えると、5年ほど前から「神戸をウェディングの街にし、活性化させよう」という取り組みをしてきた。80社以上のコンソーシアムで、婚礼は交通、宿泊、婚礼会場、料理、酒、衣装、真珠、花、映像、引き出物など神戸を代表するファッション関連20数業種が輻輳する一大イベントである。ロケーションの強みは神戸ならではであり観光としても重要なファクターで、人生のスタート地点であれば再訪のキーワードにもなり世代を超えてアピールもできる。市内年間挙式件数に1組の平均客単価375万円(2007年)を乗じると約6百億円の消費金額。低めに1.5倍を乗じても経済効果は1千億円。MICEやインバウンドも重要だが桁違いの金額・規模もさることながら、多くの業界が関わり未来に継続する強みはあると考える。指針3①②にでも是非、ひとつの推進の一項目として挙げられたい。

（後に説明する神戸2015ビジョン（重点施策計画）の中の、テーマ12(2)「観光交流の推進」①の「優れた景観や都市のブランド力の活用によるウェディング」に記載しているが、指針での記載の充実についても検討する。（事務局）

(兵庫区の目標)

- ・平清盛の歴史的な存在価値をポジティブにとらえその有形無形の遺産や、会下山隧道(旧湊川隧道)などの産業遺産も交流人口を生むため、あるいは、街づくりの核である「誇り」醸成に活用していくことを加えられてはどうか。

(雇用について)

- ・P30～31「働きやすい環境を整える」について、第3回総会以降の7月に三菱重工神戸造船所の商船建造部門撤退発表があった。第2回と第4回活力・魅力部会で、重厚長大産業で親会社である大企業が神戸から撤退するのをとめてほしいという発言が複数の委員からもあったので補足してほしい。大企業の神戸撤退を食いとめるということを明確にすべきと感じる。

(環境教育について)

- ・P60～61「低炭素社会を実現する」の中で、家庭部門や運輸部門でのCO₂排出抑制などの事業者の

記述はあるが環境教育も加えてほしい。先日聞いた話では、全国的に国語、社会、家庭科の授業の中で教育を行っているが、子どもたちには実感がなく行動ができないという。市では小学4年生にごみを通じた環境の勉強をする方策をとっているが、低学年や先生にも継続的に環境教育を行う必要があると思う。低炭素社会の実現に向け、環境教育の実施の仕組みづくりを神戸発でお願いしたい。

〔 P62④ウに「学校教育等における環境学習の機会づくり、環境関連団体等との連携による幅広い環境教育を推進します。」と環境教育について触れている。(事務局) 〕

- ・環境教育については、委員の意見の趣旨が生きた文章づくりは難しいかもしれないが、教育委員会にアピールしていただくのは非常に大事であるので伝えていただきたい。

(神戸空港の活用について)

- ・神戸にはすばらしい空港がある。空港を活用した産業育成についても触れてほしい。P34「産業の高付加価値化を図る」の中であれば、神戸は鉄鉱石を輸入して鉄をつくり、鉄を使って船をつくるという重厚長大の高付加価値産業を行っているが、例えば、飛行機を利用したパソコン関連等物流を活発にすることによる産業育成も必要だと思う。
- ・P35の3②「産官学連携により優れたものづくり技術を生む環境を整えます」の中にある程度は含まれている。うまく表現できれば考えていただきたい。

(ICT活用による生産性向上について)

- ・P85の2①「柔軟で機動的な行政システムを構築します」、ア「ICTの活用などにより市役所の一層の利便性の向上を図ります」とある。行政も業態としてはサービス業に含まれるだろうが、日本のGDPの70%はサービス産業という時代にあり、効率を上げるためにはサービス業の生産効率を上げるしか方法はなく世界の趨勢もそうである。「ICTの最大活用により」という文言を加え、ルールよりパフォーマンスを重んじること、ICT利活用による効率化、あるいはサービスの高度化を図っていけばよい。

(社会的企業・コミュニティビジネスについて)

- ・社会的企業やコミュニティビジネスについて全般的に記述されてありがたいと思う。例えば、ごみ屋敷やひとり暮らしの住宅問題、空き店舗によるシャッター街、大企業撤退も含め多くの資源の未利用が問題であり、その有効活用が大事である。環境のなかでNPO活用など記述があるが、お金の流れが厳しくなっている中、ストックを活用しビジネスや事業化、雇用も含め、社会起業家をあらゆるところで作り出さないと難しい。社会起業は金儲けでなく環境をよくすることであり、例えば、環境3R（リデュース、リユース、リサイクル）にリフォームを加え、仕事やつながりを生み出すような展開も考えられる。

(次世代スーパーコンピュータについて)

- ・P35の次世代スーパーコンピュータの利活用はものづくりに偏っているという印象をうける。ものづくりだけでなく災害対策、経済対策などいろんな活用が期待できるものと理解しているので、他の箇所(例えば、”第3部 4「知の集積」を活かす”の項、等)においては、ものづくり以外の分野に対しても広く利活用すると言う表現があってもいいと感じる。

(市場・商店街について)

- ・市場がシャッター通りになったら、例えば、スクラップ・アンド・ビルドをしてどこかをひつつけるなど都市計画の廃転などやらなければならない。おおもとの中央卸売市場が壊滅状態に近い。市

場・商店街、まちの商店、魚屋やたばこ屋は規制緩和により大変な状態である。議論が尽くされていないと感じる。

- ・商店街の実情に合わない部分があるのではないかと指摘があった。市の資料は基本的に「従業員が5名以上の企業」となっている。商店街の従業員数は平均3名程度なので実態に迫りにくい部分もあるだろう。

(指針中間とりまとめに対する市民意見について)

- ・指針中間とりまとめに対する市民意見 233 件について、指針における取り扱いをみると、的確に訂正して文言を反映している。しかし、簡単に実現できないもの、答えられてないものもあり難しい。これらをどのようにいかしていくかは全体の課題となるので、最終案の段階で文章表現に配慮をいただきたい。市民に親切な回答をしてもらえればさらに市民と気持ちに通うだろう。市民への回答方法についても考えてほしい。

基本的にはホームページに掲載して見ていただこうとの考えであるが、より直接的な回答方法について検討する。(事務局)

【神戸 2015 ビジョン（重点施策計画）】（素案）について】

(計画策定の考え方について)

- ・この計画は、従来の基本計画と文章表現など違った作り方をしている。震災後につくられた神戸 2010 ビジョンの経験に即した計画で、5 年間の目標・スケジュールを事業内容ごとに掲げて、PDCAの考え方により計画の進捗を数量的にチェックすること、また、市民、大学等、事業者、行政の役割を項目別に取り上げて目標設定をした形にしている。「神戸づくりの指針」(素案)においても、市、市民、企業のそれぞれの主体であることを「めざす姿」で紹介し、市民、行政その他で行われていることを具体的に示し、実行のきっかけになると思っている。神戸で既に長い歴史を持って具体的に進められていることを基礎にしながら考えているということがわかってもらえると思っている。

(重点施策計画検討部会における審議結果について)

- ・今年の5月から10月にかけて10名の委員からなる重点施策計画検討部会で4回の部会で審議を重ねてきた。この委員の多くは、5年前の「神戸 2010 ビジョン」の策定、検証・評価、推進等にも深く関わり、5年間の取り組みの結果、概ね達成される見込みとの総括に至ったが、幾つかの課題がありその点にも留意しながら、「神戸 2015 ビジョン」の検討を行ってきた。

「神戸 2015 ビジョン」を検討する上で特に重視した点は、市民の暮らし・経済を守り、向上させるということである。それらを実現するため、福祉、雇用、医療などの施策との密接な連携が不可欠であり、縦割りをいかに克服し、市民各層、事業者も含め参画と協働が不可欠であると考えた。

「神戸づくりの指針」でめざしている多様な人財の活躍、これが同時に可能になる市民社会像を描いている。

「暮らし」・「経済」・「ひと(人)」の大きな3つのトライアングルを中心にしながら、それらを支える安全や環境などの「支える基盤」、地域社会などの「支える仕組み」と位置づけを行っている。短期的には5年間であるが中長期のさらなる神戸の発展ということを実現していくには、創造的人材が育って、集まり、活躍でき、さらに神戸の魅力を高め、国内外に発信することが不可欠であるので、大きな目標として「創造」を掲げた。

2年前の「神戸市次期基本計画のあり方懇話会」から24回にもわたる審議会、延べ500人の委員の皆さんが50時間以上にわたって議論したものを、部会でまとめさせていただいた。「神戸2015ビジョン」は、まさしく参画と協働の大きな財産、到達点としてまとめたものである。

市では、部門別計画も40程度あり、現在、同時並行で計画づくりをされているため、目標・スケジュールが未確定の部分もある。また、国の動向もあり現時点で十分に詰め切れていないところもあり、一応の合意に至った素案として示している。ご賢察ご意見を賜りたい。

(部門別計画との関係について)

- ・部門別計画の消防の基本計画づくりに携わっている。「市民の暮らしを守る」などの基本的理念であれば消防の基本計画に生かしていくといいやすいのだが、「世界とふれあう市民創造都市を基本理念にします」となると反映しにくいという実情もあり苦慮している。

(関西広域連合について)

- ・重点施策計画は本当にすばらしくよくまとまっているが、年内にも「関西広域連合」が発足する状況にあり、危機管理センターや消防・防災、観光・文化、産業面も広域で取り組んでいこうということなので、この計画にどのように取り入れられているのか質問したい。

P131「テーマ10 行政のつながる力を高める(2)都市間連携の強化」に「関西広域連合設立の動きも見据え、関西全体の活性化を図っていく」と表現している。政令市がどういう形で参画していくか、現在は明確になってないが方向性が決まれば改定の必要もあると考えている。(事務局)

(観光について)

- ・昭和56年頃に、NHK連続ドラマ「風見鶏の館」が放映されたので神戸北野異人館街は観光名所として残った。再来年2012年に「平清盛」が放映される。神戸が舞台であれば、旧生田区から西に歴史遺産がたくさん残っており、第2の北野が西神戸で出現すると考える。「観光」という面からプロジェクトチームをつくってやっていただけたらと思うがどうか。

P152「テーマ12のまちの魅力を高め発信する(4)兵庫運河～新長田周辺の魅力向上、②兵庫運河を活かしたまちづくり」の中で「運河周辺の平清盛の史跡などの歴史的遺産や」と記述している。非常に重要な機会であり、放映を機に活性化に向けて活用できればと考えている。(事務局)

- ・P146「テーマ12 まちの魅力を高め発信する、(2)観光交流の推進、①神戸ならではの観光の推進」で、「六甲山・摩耶山・有馬温泉という都心近郊にある～六甲有馬ロープウェーを活用し夜景と温泉を組み合わせる」と書かれている。まやビューライン(摩耶ケーブルと摩耶ロープウェー)について、先月の議会ではすべての会派から存続してほしいとの議論が出たが、市では廃止も含めた検討をしている。この計画の中では「六甲有馬ロープウェーを活用し」となっており不安に思う。「新神戸ロープウェーやまやビューライン、六甲ケーブルなど全体を環境面を配慮したケーブル、ロープウェーの活用」という記載をしていただけたらと思う。意見として申し添える。

(雇用について)

- ・重点施策P18「テーマ1暮らしを守る(3)働く場の確保」について、第3回総会で非正規労働者や所得水準の低い人たちについての質問に対し、雇用や就業環境の問題は非常に重要であり、具体的施策は目標を持って重点施策計画策定の中で検討していきたいとのことであった。しかし、2万人雇用や求職者支援就職者数の目標が明示されているだけである。指針P30も非正規就業の増加が右肩上がり、この10年間で2割だった非正規の方が2002年では4割になるとグラフに示されていることでもあるので、この2015ビジョンの中で5カ年の目標と具体的な手だてを、正規雇用の促進

としてつけ加えていただきたい。

(危機管理について)

- ・P26 ページの危機管理の項目について、震災や新型インフルエンザは、神戸が最初だったので仕方がないところもあっただろうが、風評被害によるダメージについては、事後処理として議論がなく取り組みがなされていない。次の災害に備えて「風評被害」をいかに抑えるか検証していただきたい。例えば、新型インフルエンザのときは、有馬温泉、菓子組合、JRまで影響があった。震災も夏だったら、コレラなどがはやって、神戸市が立ち入り禁止になる可能性もあった。この辺を危機管理の中で表現する方法はないのかと思う。

(医療産業都市構想について)

- ・P138 のテーマ 11(2) 事業内容①「高度医療専門分野に特化した医療機関」と書いてあるが、次の P139 目標・スケジュールはこの程度の記述で十分だろうかと思う。もっと具体的に診療科目やどのような専門病院群なのかも表してもらいたい。進行中のものもあるだろうが、これからの医療産業を支えるところであるので表現がもう少し欲しい。

(障害者の表記について)

- ・障害者という「害」の字がネガティブであると国際的にも批判を浴びており、内閣府の委員会でも平仮名にするところから始めてはどうかと見直しの検討をしている。「チャレンジド」という言葉も十数パーセントの方が使っており、障害者の「害」もやめていこうという声が大半になっている。2015 ビジョンでの表記について、議論の場を設けられてもいいかと思うが、2015 年までこのままの表現ではどうか。なお、本文中、「社会参加」を「社会参画」に変えていただいたので目次も「参画」にしてほしい。

(協働と参画について)

- ・各論はこれでよいと思う。テーマごとに「協働の取り組み」の記述があり、何をやるかではなくて、どうやるのかということが大事だと申し上げたが反映されてよくなったと感じる。全般的に協働の側面は多く書かれているが参画の側面が少ない印象を受ける。自分たちが発案したやりたいことがバランスよく入っていないと計画としては偏っている。震災復興で、市民側もいろんなアイデアを出して力を発揮してきた。市民の持つ自信や力を市政に活かしていくためには、参画にも重点を置き、「協働の取り組みと参画の仕組み」など、両方を切り分けて記述するなどバランスよく盛り込んでいただければと思う。

【「各区計画」(素案) について】

- ・各区それぞれ 50 人前後の委員が集まって 3 年がかりで熱心な討議を経てまとめていただいている。この審議会委員の 11 名も区民まちづくり会議の委員であり補足をいただければと思う。

(各区まちづくり会議での計画づくり等について)

- ・各区の基本的な考え方は事務局の説明で大体似たようなものとおわかりになったと思うが、北区は市全体の面積の 44% を占めており、神戸の魅力をこのバックヤードがいかにして支えるかということを中心に、行政ではなく住民が芯になって議論してきた。今の市や北区の現状をしっかりと把握し、北区が持っている魅力をどのように発信すれば神戸全体がレベルアップしてよくなるか。真剣に、自分たちでやるのだ、区の中だけでなく市全体をにらみながら北区がどのようなことができるかということを議論した。各区計画は非常に言葉足らずで短いかもしれないが、足が地についた、

実際に行動に移していくという意欲を持っている。バックヤードは大きいので神戸の将来は安心してほしい。

- ・長田区では、「世界に誇れ！食と鉄人「グー」なまち長田」がテーマとなっており、区民まちづくり会議では、他のテーマ、スローガンに決まりつつあったが、鉄人 28 号が右腕を突き出した、長田のまちの復興にかけた人たちのマンパワーをシンボルにした。これからまちづくりが始まる時に、肝心なのは、いつも頭に浮かぶ「言葉」とはなにかを考えてこれでいこうということになった。言葉の力がここにあらわされている。従来 of 仕掛けやフレームというものから、震災復興にあたりながら新たに生み出すということ。その迫力がいまだに萎えていないと感じ、実感を持って「このまちはおもしろくてすばらしいまちだ」と思ってきた。長田区の素案を読んでいただき、市民力・区民力を感じていただければ幸いである。
- ・長田区の食というのは本当に多彩なものがあり、B級グルメにも手を挙げてほしい。また、平成7年1月5日の年頭、市長が「兵庫区歴史花回道」をつくと発表して歴史のまち兵庫をと言っていた。平清盛の話も出てきており、兵庫だけでなく旧の生田区からずっと西へかけて復活し、歴史花回道を拡大して歴史にまつわる花回道をそれぞれの区でやっていただけたらと提案しておきたい。
- ・「世界に誇れ！食と鉄人「グー」なまち長田」というテーマは、市がめざすデザインの活動が実践される一つの姿ではないか。区民まちづくり会議で議論されたのは、区民の一生や生活、地域社会のこれからの姿をどう考え、整え、形にして秩序を生み出していくか。それを活動の中で展開しようという計画案がこの中にあり、まさにこれがデザインである。問題を解決しようという活動が生まれ、創造的な活動につながり、その実践をするためのプロセスが体系化されて、実際に実験が行われ、そのコーディネーションも見事に行われていると思う。

長田区や兵庫区などに平清盛を初めとする歴史・文化、これから価値化できるようなメニューがたくさんある。今度もう一度価値化して地域文化拠点にしようという話もあり、やはりこのようなことを考えると、デザインというのは活動ではないか。神戸がユネスコからクリエイティブシティとして認められたのは、神戸の“ものづくり”や“くらしづくり”、“まちづくり”の活動が評価されて示されたものであり、めざすデザインの一つのモデルと認識した。

- ・本日の次期基本計画（素案）については、計画相互の関連性など計画全体を通しての観点も含めてさらに整理をして、今後、事務局と相談しながら、次回の総会で審議会原案として提案していく。本日の意見をうまく全部こなせた文章表現になれば一番理想的であるので努力するが、ご理解をいただきたい。

(2) 今後のスケジュール等について

- ・計画名称について、「神戸づくりの指針」「各区計画」はそのままの名称とし、重点施策計画については、重点施策計画検討部会での検討を経て、本日の審議により「神戸 2015 ビジョン」と呼称することが了承された。
 - ・会長により議事の終了が告げられ、審議の結果を踏まえて次回第5回総会に向け審議会原案としてとりまとめていくこと、また、その後パブリックコメントを実施し、来年1月開催の第6回総会にて審議を行い、2月上旬に計画を発表するスケジュールが確認された。
- その後、閉会が告げられ会議は終了した。

以上

【委員からの追加意見について】

(妊娠・出産・育児の支援について)

- ・素案資料は、以前に比べグラフや写真を盛り込み、また文章も読みやすくなっており、全体的に大変わかりやすくできているのではないかと思います。
- ・神戸 2015 年ビジョン(重点施策計画)素案、P75「妊娠・出産・育児への支援」についての意見ですが、協働の取り組みとして、市民と行政(健康福祉局)、大学・事業者との関係はあるのですが、医療との連携や取り組みが特に書かれていないことに疑問を感じました。
実際自分自身が現在妊娠していて、また子育てをしているわが身としては、「妊娠・出産・育児」に特に身近に関わってくるのは、行政と病院(産婦人科や小児科などの医療)だと感じています。
P76 に、妊娠・出産にかかる経済的な軽減やリスク回避の支援などが書かれておりこれは当然重要なことですが、健康福祉局と市民で解決できるものではなく(行政側が一方的にするべきこととして書かれているように思えたので)、最終的には医療の力を必要として診てもらうことになり、市民と行政と医療の連携は切り離せないものだと思うので、医療との協働の取り組みや支援は必要なのではないかと感じました。
- ・《テーマ1くらしをまもる》の中でも《テーマ2いのちをまもる》(救急医療体制・健康危機管理の頁はありましたが、違う観点のものだった)の中でも、妊娠・出産・育児と医療に関連したものが見当たらなかったのもので、例えば医療側からの適切な情報提供や、妊婦健康検査の受診の促進などがあると、妊娠・出産の際は必ず病院にかかることになるので、市民側としてはありがたい支援だと感じることを思います。

(環境教育について)

- ・重点施策のテーマ8(4)低炭素都市づくりの推進について、2025 年に向けて、教育の場での、環境教育実施の仕組みづくりが必要と思います。どの欄にも記載されていない。
- ・この低炭素社会づくりには、環境局主導での記載ですが、とくに家庭部門等への、CO₂排出抑制については、市民の生活には全部の局・組織の連携が必要と思います。
- ・とりわけ環境教育についての記載が見えません。低炭素社会づくりには大きな効果が期待できます。
- ・とくに子供たちへの環境教育については、教育部門の参加が欠かせません。防災・安心安全・生物多様性、人が生きるための基礎になります。生きる力養うのが環境教育です。
- ・文科省の環境教育の項目には、社会、国語、家庭科、算数等での実施がうたわれています。この実態は全く、教科として実施され、環境教育としては実施されていません。
- ・中学生・高校生の話を聞く機会があり、確かめてみましたが、環境という事で学習したのは、4年生の総合学習のゴミ学習を通じたものしかないとのこと。環境の学習が出来ていれば、行動に移せる、大人になってから始めるのは遅すぎるとの話でした。教育委員会と環境局とが協働し、環境教育を推進していただきたく思います。
- ・神戸で将来の低炭素社会に向けた環境教育の実施の仕組みづくり、もちろん実施を全国に向けて発信していけるように提案したいです。

(創造都市について)

- ・創造都市（デザイン）がわかりにくかったことに関しまして以下の提案をします。

「世界とふれあう市民創造都市」→「くらしをはぐくみ世界とふれあう市民創造都市」

これで以下を反映できると思います。

〔くらし（まもる、いのち）、経済（活力、活性化）、ひと（活躍、育む）〕

神戸市にとって大事件である震災の前の時点で定めた都市像のままでよいのか、ということが問われていると思います。

(テーマ4 産業を活性化する)

- ・協同の取り組みのなかで市民の役割が消費活動という面で捉えられていますが、もっと積極的に利益を享受するくらいの参加ができることが活性化に繋がるのではないのでしょうか。

市民のほんの小さなつぶやきから可能性や魅力を拾い出し、事業化させていくような、業種や局を越えた受け皿を作っていただきたいと思います。

(テーマ7 安全・安心の基盤を築く(1)耐震化の推進)

- ・すまいの耐震化率 83%（2003）とありますが、最新のデータを記載していただきたいことと耐震改修工事を必要とする地震危険住宅を母数とした改修率も提示していただきたいと思います。

耐震化率の数値からは耐震化が進んでいるようにも見えますが、実際には耐震化の必要な住宅の改修工事率は非常に低い数値になっていると思われるのでその改修促進の重要性を周知する必要があります。また、昭和 56 年以降に建てられた建物であっても地震で倒壊しなかった建物に対する耐震診断の推進も必要と思われます。かなり傾いているマンションや住宅もあり、以後中規模の地震でも倒壊する危険性が増しているのではないのでしょうか。

(テーマ8 (4)低炭素都市づくりの推進)

- ・「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が 2010 年 10 月 1 日に施行されましたが、公共建築物にのみならず民間企業や住宅に対しても国産材の利用によってもたらされる環境貢献度の見える化や社屋や店舗の木造化による温室効果ガス削減への目標達成に活用できる仕組みなど他の市町村に先んじて主体的に取り組んでいただきたいと思います。

(テーマ12(1)魅力あるまちなみや景観づくり)

- ・大阪府では「ええとこ大阪」と題して府民の皆さんからお気に入りの景色や面白い大阪を写真に写して送るという募集していましたが、ぜひ隠れた神戸の魅力を多くの方から募っていただきさまざまな視点から活用していただきたいと思います。

(観光交流の推進)

- ・すでにある「神戸セレクション」は魅力があると思います。市民の声を反映させた商品化など更なる充実と情報発信に努めていただきたいと思います。

(都心・ウォーターフロントの魅力向上)

- ・三宮駅周辺の大改造の推進はありますが、新神戸駅は触れられていないようですが異人館にも徒歩圏であり、つながりのある魅力的な空間にすべきだと思います。

(神戸づくりの指針素案) P25, P31 の「農業」は「農漁業」ではないのでしょうか。

(神戸2015ビジョンについて)

- ・計画を実現するには、経済力を高めることが必要。その意味で「新たな活力を生み出す」方策がもっとも重要だが、内容が十分とは言いがたい。(紙数の関係かと思うが)
- ・福祉やコミュニティビジネスをどうするかというミクロの視点も無視できないが、神戸市域外からいかに富を集めるかの視点で取組策を考えるべき。どこの誰をお客と考え、何を提供して儲けるか。
- ・国内のマーケットであればどうか、国際マーケットならどうか、モノやサービスの生産を誰と組んで競争力を持たせるか。(メガリージョンの具体化、海外都市との連携・協力)
- ・その為の人材育成をどうするか。日本人だけでやるのか、海外人材をどう獲得するのか。
- ・当局や市会議員が“知らない”“聞いたことのない”視点・事例・方策を委員先生方からもっと引き出してほしいと存じます。
- ・5年間という期間は短い時間です。しかし、福祉ニーズが高まるスピードは早く、扶助費は急速に拡大するでしょう。この短期間に“福祉圧力”を吸収できる経済力拡大に全力を傾けなければならぬと深刻に考えるところです。